

販促 E Y E

ノベルティからブース提案、ブランディングまで
セールスポモーションも東洋プリディアにおまかせ!!

Vol.6

正しい ブランディング のススメ

これからは「ブランディング」で長く愛される企業・製品を目指しては いかがでしょうか?

「ブランディング」という言葉を耳にするようになってずいぶん経ちますが、元をたどれば40年くらい前にアメリカから伝わった「CI」という販促技法に起源があるそうです。

「CI」とは「Corporate Identity(コーポレートアイデンティティ)」の略で、直訳すると「企業証明」です。では企業証明とはいったい何でしょうか?

例えば、Aさんが銀行の窓口に行き、窓口の方から「あなたは本当にAさんですか?」と尋ねられたらAさんはどうしますか?まさに自分が自分であることを証明しなければならない状況になったわけです。そんな時、免許証や保険証を見せるという答えが一般的です。この免許証や保険証といったものを「自己証明(セルフアイデンティティ)」と呼び、この考え方を企業単位にしたものが「CI」と呼ばれるものです。つまり企業がその企業であることを証明する必要がある時に免許証や保険証に代わる企業証明の証が「CI」となるわけです。

では「CI」には具体的にどんなものがあるのか?

例えば、A社の営業マンが初めて客先へ行った際、A社の人間であることを証明する必要に迫られます。また大きな展示会など、他企業も一緒に出展しているような場合にもA社のブースがA社であることを証明が必要となります。前者は名刺などで解決できますし、後者は大きな看板を掲げれば解決できます。しかし、名刺も看板も個別にデザインするよりも、イメージを統一したほうが効率よく正確にA社であることを証明ができるのでは?

ここではじめて、ロゴマークやコーポレートカラーの設定が必要となってきます。

しかしあくまでも証明の必要性があるか否か、あるとすれば誰に対してどのような企業証明を行うかが「CI」です。決してロゴマークのデザインをすることだけではありません。

この「CI」ブームもひと段落すると、例えば「トヨタ」や「パナソニック」を知らない人はなくなり、どんな会社で何をしているかはみんなに知れ渡りました。しかし今度は「企業証明」だけでは解決できない状況が生まれてきました。企業間の競争激化で、類似品やまがい物が世に蔓延したのです。売り場を含めた認知度向上の努力が不足していたことから、間違った商品を買われてしまったり、機能的に大差ないなら安い方でいいやと、類似品を選ばれてしまったり。これは「CI」では解決できない問題です。そこでブランドの証明「BI(ブランドアイデンティティ)」が生まれました。これが今で言うブランディングなのです。

「CI(コーポレートアイデンティティ)」も「BI(ブランドアイデンティティ)」も、

- ①私は誰?
- ②その私を発信する必要はあるか?
- ③あるとすれば誰に対してか?

この3つを確立させることがブランディングです。

貴社も概念から確立された正しいブランディングをしてみませんか?

弊社による事例のご紹介

プラスチック食品容器メーカーの新製品PRにおいて、弊社がブランディングを担当。

- ①私は誰か?
新技術により生まれた白磁のような輝きを持つプラスチック容器シリーズ「Pure White」
- ②その私を発信する必要はあるか?
色でシリーズ化させること自体はじめてのこころみ。新型ではないこと、様々な分野に関係した新技術であることなど、発信する必要性がある。
- ③あるとすれば誰に対してか?
今回の技術はサラダ、惣菜、スイーツ、寿司、刺身と、様々なジャンルで高質製品の演出ができるので、対象はそのあらゆるジャンルのユーザーに広がる。

前述の概念を構築させ、専用カタログ・展示会ブースの制作など一貫したプロデュースを実施。白磁のような白さをプラスチック容器で再現した今回の製品の特長から、白雪姫のモデルとなっているドイツの貴婦人をイメージキャラクターに抜擢。コンセプト、ロゴマークの制作から、シール、ノベルティにも展開。大変ご好評をいただきました。



(文責:制作部 額縁泰典)

事例 1 リスパック様/展示会ブース

立体的な売り場演出で注目度UP!



企画の内容や商品ラインナップが良くても、売場において2番手3番手になってしまうのが冷し麺コーナー。魅力が伝わる前に他の弁当や惣菜に流れてしまうのを防ぐべく、展示スペースに大きな斜面を作り、立体的な日本列島を造作。遠くからでもご当地企画とわかるようにし、集客アップをねらった提案です。

事例 4 JAなごや様/「陽娘」米袋

米袋のデザインとキャラクターの商標登録まで行いました!



JAなごやで発売されているお米を10年ぶりにフルリニューアルしたいとのことでデザインコンペに参加。和紙の質感の袋によく馴染む可愛らしいイラストキャラクターをオリジナルで書き起こし、見事採用され、ロゴとあわせてキャラクターも2種、商標登録をしました。また、袋デザインをベースに贈答用のパッケージも制作しました。

事例 2 テルナイト様/今治エコタオル

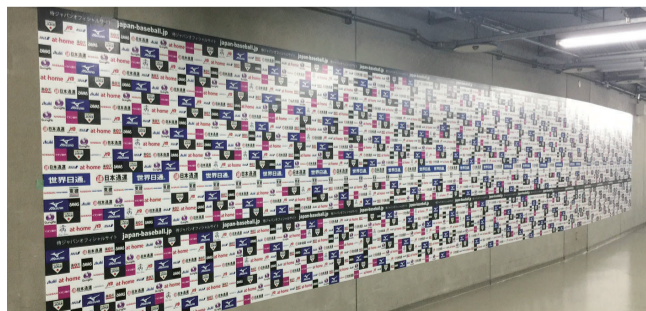
いつもより、少し良いものを贈りませんか?



毎年お歳暮の時期に当社で名入れタオルをご発注いただいているお客様でしたが、今回は少しだけ良いものを贈られては?と、のしをつけた今治のブランドタオルを提案。大変ご好評いただき、その後リピート注文もいただきました。

事例 5 ナゴヤドーム様/侍ジャパン強化試合広告看板

各種パネルの印刷・加工から当日の施工まで担当しました!



事例 3 ジュニ様/特典取得用スタンドPOP

ご相談ください! 材質次第でコストはもっと抑えられます!



店頭に着くPOPを作りたいとご相談いただきました。とにかく低予算で、ある程度の耐久力のある自立式POPを作りたいとのことでしたので、厚紙を使った自立スタンドを提案し、安価で丈夫なPOPができたことご好評いただきました。

掲載の製品は全て弊社制作事例です。デザインや価格、仕様等は下記担当者までお問い合わせください。
その他ノベルティ・販促ツールのご要望がございましたら、お気軽にご相談ください。